



われらの森山校

志布志市立森山小学校だより NO.3 令和7年6月23日発行
学校ホームページ <https://424.ciao.jp/moriyama-els/>



体力・運動能力調査(5月28日)

褒め言葉は心のご褒美

校長 古石 美紀

褒められて嫌な思いをする人はめったにいません。大人であっても嬉しいものです。

以前教頭として仕えたある校長先生は、いつも職員に「子どもは褒めて褒めて、褒め倒してください」とおっしゃっていました。ちょうど今の時期、6月頃は、4月の頃に比べて子どもたちとの関係も落ち着き、残念なことに少々小言が多くなります。「子どもを叱ることは否定しないが、褒めることとのバランスが何よりも大事。経験上、叱られてよくなった子はあまりいない。むしろ叱られてばかりでストレスとなり、他の子にチョッカイを出しトラブルを起こすという負の連鎖に陥ることが多い」と。そして「99%の子どもは褒めて伸びるタイプ。できないことを責めるより、できたことを目一杯褒めてあげよう」とも。私も、子どもの様子をよく見つめ、ちょっとした行動や言葉を意識して褒め、自分のよさを実感させることが教師の役割であると考えていましたので、教頭としていろいろな学年の子どもたちの素敵な言動や振る舞いを見つけようと努力しました。そして、そのよさを、本人だけでなく担任にも伝え、褒め褒め攻撃と言われるくらい、たくさん伝えました。ちょっと照れくさそうな、でも嬉しそうな子どもたちの表情が懐かしく思い出されます。

森山小学校の先生方や子どもたちの学習の様子を見に行くと、「ほお～、〇年生、さすがです。」「〇〇さん、〇〇が上手！すごいね！」「みんな花マルだね！」と、先生方が子どもたちを褒めている、または子どもたち同士で褒め合っている場面に遭遇することがよくあります。聞いているこちらまで嬉しくなるのが不思議です。褒められた子どもは尚更でしょう。叱

るときは叱る。褒めるときは褒める。バランスよく、子どもの成長をしっかり見守りながら、森山小の先生方にはもっともっと褒め上手になってほしいです。

と、褒める事について考えていたときに、6月11日(水)付け南日本新聞「ひろば」欄の投稿が目に入りました。「言葉は不思議 ご褒美にもなる」という投稿です。「言葉は不思議な力を持っている、久しぶりに出席した公民館講座で素敵な言葉を掛けてもらい、ご褒美をもらったようで心まで明るくなった」と綴っておられました。また「言葉一つでこんなにも心が左右されるのだ」とも。投稿者は70代の主婦の方。大人の私たちにとっても、褒められる、素敵な言葉を掛けられるという体験は心に響きます。

先月の学校だより「毎月15日は「子ほめの日」。褒め言葉のシャワーで、子どもたちに自信をつけましょう」との記事を載せました。まさに志布志市は「褒める」ことを大事にしており、平成18年に「子ほめ条例」を制定、20年近く子どもたちのよさを発見・表彰しています。そして今年度から新たに、毎月15日を「子ほめの日」、11月5日を「いい子の日」とし、子どもを積極的に褒めようという取組が始まりました。

地域でも、ご家庭でも、子どもたちを褒める言葉がたくさん交わされると素敵です。いや、子褒めと言わず、今お隣にいる身近な誰かを褒めてみてはいかがでしょう。みんなの心にご褒美です。

